

樞密院會議筆記

一 日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約締結及關係公文交換ノ件

二 日滿華共同宣言署名ノ件
情報局官制

一 外務省官制中改正ノ件
文官任用令中改正ノ件

一 大正二年勅令第二百六十二號任用分限又ハ官等ノ初級陞級ノ規定ヲ適用

二 七サル文官ニ關スル件中改正ノ件
情報局情報官ノ特別任用ニ關スル件

一 司法省官制中改正ノ件
奏任文官特別任用令中改正ノ件

昭和十五年十一月二十七日(水曜日)午前十時二十分開議
聖上臨御

出席員

原 議長

大臣

近衛内閣總理大臣 五番

金光厚生大臣 六番

秋田拓務大臣 七番

東條陸軍大臣	八番
松岡外務大臣	九番
橋田文部大臣	十番
小林商工大臣	十一番
河田大藏大臣	十二番
安井内務大臣	十三番
風見司法大臣	十四番
村田遞信大臣	十五番
石黒農林大臣	十六番
及川海軍大臣	十七番

小川鐵道大臣	十八番
--------	-----

顧問官

河合顧問官	廿一番
石井顧問官	廿二番
石塚顧問官	廿五番
清水顧問官	廿六番
南顧問官	廿七番
奈良顧問官	廿九番
荒木顧問官	三十番
松井顧問官	卅一番

管原顧問官

卅二番

松浦顧問官

卅三番

潮顧問官

卅四番

林顧問官

卅五番

深井顧問官

卅六番

二上顧問官

卅七番

真野顧問官

卅八番

大島顧問官

卅九番

小幡顧問官

四十番

三土顧問官

四十二番

闕席員

鈴木副議長

親王

雍仁親王

一番

宣仁親王

二番

崇仁親王

三番

載仁親王

四番

顧問官

金子顧問官

二十番

有馬顧問官

卅三番

窪田顧問官 廿四番

田中顧問官 廿八番

竹越顧問官 四十一番

委員

村瀨法制局長官

森山法制局參事官

以上各件ニ付

柳川興亞院總務長官

鈴木興亞院政務部長

山本外務省東亞局長

相田大藏省理財局長

以上日本國中華民國間基本關係ニ關スル
條約締結及關係公文交換ノ件外一件ニ付

松本外務省條約局長

河村陸軍省軍務局軍務課長

岡海軍省軍務局長

以上日本國中華民國間基本關係ニ關スル
條約締結及關係公文交換ノ件外一件及情

報局官制外四件ニ付

佐藤法制局參事官

伊藤內閣情報部長

久富内閣情報部情報官

須磨外務省情報部長

藤原内務省警保局長

安田遞信省電務局長

以上情報局官制外四件ニ付

三宅司法次官

司法省官制中改正ノ件ニ付

兒玉厚生次官

奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ付

報告員

河合審査委員長代理

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約
締結及關係公文交換ノ件外一件ニ付

石井審査委員長

情報局官制外四件ニ付

石塚審査委員長代理

司法省官制中改正ノ件ニ付

堀江書記官長

奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ付

書記官

諸橋書記官
高辻書記官

議長(原)之ヨリ會議ヲ開ク

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約
締結及關係公文交換ノ件

日滿華共同宣言署名ノ件

以上二件ヲ一括シテ議題ニ供ス第一讀會ヲ
開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査委員長ノ報告
ヲ求ム

報告員(河合)本日鈴木審査委員長缺席ノ爲本

員代ツテ報告ス

今回御諮詢ノ日本國中華民國間基本關係ニ

關スル條約締結及關係公文交換ノ件竝ニ日
滿華共同宣言署名ノ件ニ付本官等審査委員
タルノ命ヲ承ケ本月二十日及二十一日ノ兩
日ニ互リ委員會ヲ開キ事案ノ極メテ關要ナ
ルヲ念ヒテ具ニ國務大臣及關係諸官ノ辯明
ヲ聽キ慎重之ガ查覈ヲ遂ゲタリ
國務大臣ノ説明ニ依レバ支那事變勃發以來
帝國政府ハ政戰兩略ヲ盡シテ事變ノ目的達
成ニ邁進シ昭和十三年一月十一日ノ御前會
議決定ノ支那事變處理ニ關スル根本方針及

同年十一月三十日ノ御前會議決定ノ日支新
關係調整方針ニ基キ重慶政權ニ對シ其ノ反
省ヲ促スト共ニ他方帝國ノ眞ノ目的ト使命
トヲ理解シ帝國ト提携シテ新支那建設ニ邁
進シ得ベキ新ナル政治勢力ノ育成ヲ企圖シ
且之ガ實行ヲ爲シ來レリ然ルニ現下内外諸
般ノ情勢ヲ考察スルニ曩ニ南京ニ樹立セラ
レタル新政府ハ爾來漸次其ノ政治力ヲ増大
シ來レルヲ以テ此ノ際同政府トノ間ニ新關
係ノ再建ニ關スル基準ヲ定メテ之ヲ中外ニ

闡明シ同政府ヲ中華民國ヲ代表スル政府ト
 シテ正式ニ承認シ速ニ其ノ政治力ノ培養強
 化ヲ圖リ由テ以テ帝國ノ事變遂行ニ協力セ
 シメ重慶政權ノ崩壞全面和平ノ招來ヲ期ス
 ルノ方途ニ出ヅルノ必要ヲ認ムルニ到レリ
 茲ニ於テカ帝國政府ハ右新政府トノ間ニ日
 華間基本關係ニ關スル條約ヲ締結セントシ
 曩ニ特命全權大使ヲ派遣シ之ガ折衝ヲ重ネ
 シメタルニ今般漸ク妥結ニ達シ茲ニ其ノ成
 案ヲ得ルニ到レリ又中華民國國民政府ニ依

ル滿洲國ノ承認及滿洲國ニ依ル中華民國國
 民政府ノ承認ハ右ノ條約締結ト同時ニ之ヲ
 行フコトヲ要スル重要案件ナルガ之ガ承認
 ハ日滿華三國間ノ一般提携ヲ約スル共同宣
 言ニ依リ之ヲ爲サントシ之ガ交渉ハ前述條
 約ノ折衝ト併行シテ三國政府間ニ行ハレ其
 ノ結果遂ニ意見ノ一致ヲ見ルニ到レリ仍テ
 政府ニ於テハ本案ノ條約及其ノ附屬文書竝
 ニ共同宣言ヲ一括シテ茲ニ本院ノ詢議ニ付
 セラレンコトヲ奏請シタルモノナリ

本案各件ノ要旨ハ次ノ如シ

第一 日本國中華民國間基本關係ニ關スル

條約締結及關係公文交換ノ件

本案ノ取極ハ條約ノ外之ニ添屬セル附屬

議定書同議定書ニ關スル日華兩國全權委

員間了解事項秘密協約秘密協定及秘密交

換公文二件ヲ伴フ以下順次之ヲ説明スベ

シ

(甲)條約

本條約ハ日華兩國間ノ關係ヲ規律スベキ

基本的條規タルモノニシテ其ノ前文ニ於

テ兩國政府ハ相互ニ其ノ本然ノ特質ヲ尊

重シ東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設

スルノ共同理想ノ下ニ善隣トシテ緊密ニ

提携シ以テ東亞ニ於ケル恒久的平和ヲ確

立シ之ヲ核心トシテ世界全般ノ平和ニ貢

獻センコトヲ希望スル旨ヲ掲ゲ次デ其ノ

本文九箇條ニ於テ第一條ニ於テハ兩國政

府ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ

政治經濟文化等各般ニ互リ互助敦睦ノ手

段ヲ講ズベク又政治外交教育等諸般ニ互
 リ相互ニ兩國間ノ好誼ヲ破壞スルガ如キ
 措置及原因ヲ撤廢シ且將來ニ互リ之ヲ禁
 絶スルコトヲ約シ第二條ニ於テ兩國政府
 ハ文化ノ融合創造及發展ニ付緊密ニ協力
 スベキモノトシ第三條ニ於テ兩國政府ハ
 一切ノ共產主義的破壞工作ニ對シ共同シ
 テ防衛ニ當ルコトトシ之ガ爲メノ必要ナ
 ル措置ニ付緊密ニ協力シ又日本國ハ防共
 ノ爲メ所要期間中軍隊ヲ蒙疆及華北ノ一

定地域ニ駐屯セシムルコトトシ第四條ニ
 於テ兩國政府ハ中華民國ニ派遣セラレタ
 ル日本國軍隊ガ撤去ヲ完了スルニ至ル迄
 共通ノ治安維持ニ付緊密ニ協力スルコト
 ヲ約シ該派遣軍隊ノ駐屯地域等ニ關シテ
 ハ兩國間ニ協議決定スルコトトシ第五條
 ニ於テ中華民國政府ハ日本國ガ從前ノ慣
 例ニ基キ又ハ兩國共通ノ利益ヲ確保スル
 爲メ所要期間中其ノ艦船部隊ヲ中華民國
 領域内ノ特定地域ニ駐留セシメ得ルコト

ヲ承認スベキモノトシ第六條ニ於テ兩國政府ハ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フモノトシ華北蒙疆及其ノ他ノ地域ニ於ケル特定資源開發ニ關スル中華民國ノ夫々執ルベキ措置ヲ定メ更ニ兩國政府ハ一般通商ヲ振興シ兩國間ノ物資需給ヲ便宜且合理的ナラシムル爲メ必要ナル措置ヲ講ズルコトトシ尚中華民國ニ於ケル産業金融等ノ復興發達ニ付日本國政府ノ援助乃至協力ヲ約シ第七條ニ於テ本條約ニ基ク

日華新關係ノ發展ニ照應シ日本國政府ハ中華民國ニ於ケル治外法權ヲ撤廢シ租界ヲ還付スベク、中華民國政府ハ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲メ開放スルモノトシ第八條ニ於テ本條約ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル具體的事項ニ關シテ更ニ約定ヲ締結スルコトトシ第九條ニ於テ本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベキ旨ヲ定メタリ

(乙) 議定書

本議定書ハ主トシテ條約實施ニ伴フ過渡
 的事項ヲ定メタルモノニシテ五箇條ヨリ
 成リ第一條ニ於テハ中華民國政府ハ日本
 國ガ中華民國領域内ニ於テ現ニ遂行シツ
 ツアル戰爭行為繼續期間中戰爭行為遂行
 ニ伴フ特殊事態ノ存在スルコト及日本國
 ガ戰爭行為ノ目的達成上必要ナル措置ヲ
 執ルコトヲ諒解シ相應ノ必要措置ヲ講ズ
 ルモノトシ尚右特殊事態ハ戰爭行為繼續
 中ト雖支障ナキ限り適宜條約及附屬文書

ノ趣旨ニ準據シテ調整セラルベキモノト
 シ第二條ニ於テ從前中華民國臨時政府中
 華民國維新政府等ノ辨シタル事項ハ其ノ
 儘中華民國政府ニ繼承セラレタルガ右事
 項中調整ヲ要スベキモノハ漸次條約及附
 屬文書ノ趣旨ニ準據シテ速ニ調整セラル
 ベキモノトシ第三條ニ於テ兩國間ノ全般
 的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ
 日本國軍隊ハ本條約及兩國間ノ現行約定
 ニ基キ駐屯スルモノ以外ハ撤去ヲ開始シ

治安確立ト共ニ二年以内ニ之ヲ完了スベ
ク中華民國政府ハ本期間ニ於テ治安ノ確
立ヲ保障スルモノトシ第四條ニ於テ中華
民國政府ハ同國ニ於テ事變ニ因リ日本國
臣民ノ蒙リタル權利利益ノ損害ヲ補償ス
ベク又日本國政府ハ事變ノ爲メ生ジタル
中華民國難民ノ救濟ニ付同國政府ニ協力
スベキモノトシ第五條ニ於テ本議定書ハ
條約ト同時ニ實施セラルベキ旨ヲ定メタ
リ

(丙) 議定書ニ關スル了解事項

本了解事項ハ議定書第一條及第二條ノ規
定ニ關聯シ其ノ解釋ヲ明確ナラシムル爲
メ兩國全權委員間ニ成立セルモノニシテ
五項目ヨリ成リ其ノ第一項ハ中華民國ニ
於ケル各種徵稅機關ニシテ目下特異ナル
狀態ニ在ルモノハ速ニ之ガ調整ヲ計ルベ
キモノトシ第二項ハ目下日本軍ニ於テ管
理中ノ公私營ノ工場鑛山及商店ハ特殊ノ
事情ニ在ルモノヲ除キ速ニ之ヲ中華民國

機密院

側ニ移管スル爲メ必要ナル措置ヲ講ズル
モノトシ第三項ハ日華合辦事業ニシテ固
有資産ノ評價、出資比率等ニ付修正ヲ要ス
ルモノアルニ於テハ之ガ是正ノ措置ヲ講
ズベキモノトシ第四項ハ中華民國政府ハ
日華經濟提携ノ原則ト牴觸セザル限り對
外貿易ニ關シ必要ナル統制ハ自主的ニ之
ヲ行フベク尤モ事變繼續中ハ右ノ統制ニ
付日本國側ト協議スルヲ要スルコトトシ
第五項ハ中華民國ニ於ケル交通及通信ニ

關スル事項ニシテ調整ヲ要スルモノハ事
態ノ許ス限り速ニ之ガ調整ヲ計ルモノト
スル旨ヲ定メタリ
以上ノ(甲)(乙)(丙)ハ調印ト同時ニ公布セラル
ルモノナリ
(丁)秘密協約
本協約ハ條約ヲ補充スルモノニシテ四箇
條ヨリ成リ第一條ニ於テ條約第五條ノ規
定ニ基キテ日本國艦船部隊ノ揚子江沿岸
華南沿岸島嶼等ノ特定地點ニ於ケル駐留

ノ事ヲ定メ日本國艦船ノ中華民國領域内
 港灣水域ニ自由ニ出入碇泊シ得ル旨ヲ約
 シ又兩國ハ華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯
 スル地點ニ於テ緊密ナル軍事上ノ協力ヲ
 行フコトトシ第二條ニ於テ廈門及海南島
 竝ニ其ノ附近ノ諸島嶼ニ於ケル特定資源
 ノ開發生産及利用ニ付必要ナル事項ヲ定
 メ第三條ニ於テ本協約ノ公表時期ニ付約
 シ平和克服後又ハ其ノ以前ニ於テ之ヲ發
 表スルコトトシ第四條ニ於テ本協約ハ條

約ト同時ニ實施セラレベキ旨ヲ定メタリ

(戊) 秘密協定

本協定ハ前項ノ協約ニ準ズル取極ニシテ
 四箇條ヨリ成リ第一條ニ於テ兩國政府ハ
 相互提携ヲ基調トスル外交ヲ行ヒ之ニ反
 スルガ如キ一切ノ措置ヲ第三國トノ關係
 ニ於テ執ラザルコトヲ約シ第二條ニ於テ
 中華民國政府ハ日本國軍隊ノ駐屯ニ必要
 ナル諸般ノ便宜ヲ供與シ且日本國軍隊ノ
 駐屯地域及之ニ關聯スル地域ニ存在スル

鐵道航空通信等ニ付軍事上必要ナル要求ニ應ズルコトトシ但ダ平時ニ於ケル中華民國ノ行政權及管理權ハ尊重セラルベキ旨ヲ定メ第三條ニ於テ兩國政府ハ必要ノ場合協議ノ上本協定ノ全部又ハ一部ヲ公表スベキモノトシ第四條ニ於テ本協定ハ條約ト同時ニ實施セラルベキ旨ヲ定メタリ

(己) 秘密交換公文

本交換公文ハ甲乙二種ニ分レ(甲)ハ(イ)蒙疆

ノ自治權(ロ)全般的平和克復後ニ於ケル華北政務委員會ノ權限構成(ハ)新上海ノ建設(ニ)華南沿岸特定島嶼及之ニ關聯スル地點ニ關スル措置竝ニ(ホ)日本人顧問及職員ノ招聘採用ニ關スル必要ナル事項ヲ確約スルモノ(乙)ハ日本國が中華民國領域内ニ於テ戰爭行爲ヲ繼續スル期間中中華民國政府ハ右ノ戰爭行爲ノ目的完遂ニ付積極的ニ協カスベキ旨ヲ誓約スルモノナリ而シテ右ノ(甲)(乙)ハ永久發表スベキモノニ非ズ

第二 日滿華共同宣言署名ノ件

本案ハ中華民國國民政府ニ依ル滿洲國ノ
 承認及滿洲國ニ依ル中華民國國民政府ノ
 承認ヲ主眼トスルモノニシテ日滿華ノ三
 國ハ相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シ互惠
 ヲ基調トスル一般提携就中善隣友好共同
 防共經濟提携ノ實ヲ擧グベク之ガ爲メ各
 般ニ互リ必要ナル手段ヲ講ジ及本宣言ノ
 趣旨ニ基キ速ニ約定ヲ締結スベキ旨ヲ宣
 言セントスルモノナリ

按ズルニ汪精衛ヲ首班トスル中華民國國民
 政府ガ帝國ノ支那事變處理方針ニ呼應シテ
 成立シ帝國ト提携シテ東亞ノ新秩序建設ニ
 邁進センコトヲ盟約スルニ及ビ帝國ガ之ト
 國交ノ再開ヲ計リ帝國不動ノ國是ヲ實現セ
 ンガ爲メ同政府ヲ承認スベキコトハ現下ノ
 事態ニ於テ當然ノ事理ニ屬ス而シテ本案ノ
 取極及共同宣言ハ同政府ヲ以テ中華民國ヲ
 代表スル政府トシテ正式ニ承認シ日華間ノ
 基本關係ヲ規律シ相携ヘテ其ノ理想ノ實現

ニ協カスルト共ニ同政府ヲシテ滿洲國ヲ承認セシメ及滿洲國ヲシテ同政府ヲ承認セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ洵ニ機宜ヲ得タルノ措置ナリト謂フベシ但ダ本取極ノ實施ニ當リテハ政府ハ常ニ之ガ成果ヲ收ムルニ萬遺憾ナキヲ期スルト共ニ其ノ基本精神ニ鑑ミ中華民國民心ノ把握ニ付最善ノ努力ヲ吝マザランコト本官等ノ衷心希望シテ已マザル所ナリ仍テ審査委員會ニ於テハ本案ハ孰レモ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベ

機密院

キ旨右希望事項ト共ニ全會一致ヲ以テ議決シタリ
右審査ノ結果ヲ審査委員長ニ代リ報告ス
二十五番(石塚) 支那事變ノ處理及東亞新秩序ノ建設ニ付テハ夙ニ廟議ノ決スル所アリ帝國不動ノ決意ハ茲ニ於テ定マリ本案ノ條約ハ右ノ方針ニ基キ交渉ノ結果妥結ニ達シタルモノニシテ寔ニ慶賀ニ堪ヘズ然リト雖本案條約ノ締結ハ帝ニ汪精衛ノ首班タル新政府ヲ承認スルノミヲ以テ足レリト爲スベカ

五
六
七

ラズ之ヲ具體化スルニ依リ始メテ其ノ目的
ヲ達成シ得ベキナリ而シテ其ノ方途ハ一ニ
シテ止マラズト雖重慶政府ヲ屈伏セシムル
ヲ以テ最モ喫緊ト爲スベシ蓋シ同政府ニシ
テ存在スル限ニ於テハ條約ノ效果ノ全キヲ
期シ得ザルノミナラズ本案ノ條約ハ事實上
中華民國領土ノ一部及之ニ在住スル民衆ヲ
代表スル政府ヲ對手トスルモノナルニ拘ラ
ズ其ノ明文ニ於テハ中華民國ノ全領土及全
民衆ヲ對象トシタルモノト解スルノ擬制ヲ

爲サザルヲ得ズ即チ條約ノ形式ヲ實際ニ合
致セシメンガ爲ニハ重慶政府ノ處理ヲ絶對
ノ必要トシ又現ニ條約中ニハ全般的平和克
服ノ語ヲ用ヒ之ガ處理ヲ當然ノ歸結ト爲セ
バナリ重慶政府處理ノ方策ニ付テハ政府ニ
於テ夙ニ考究セラレ同政府ニ對シ直接工作
スルノ腹案モアルヤニ聞ク但シ蔣自ラ來ツ
テ和ヲ乞ヒ又ハ帝國側ノ代表者が重慶ニ赴
キ和ヲ講ゼシムルハ何レモ現下ノ情勢ニ於
テハ不可能トスベク唯ダ可能ナルハ重慶側

ノ要人ヲ迎へ之ト和平ノ交渉ヲ遂グルニ在
リトスルモ中間者ノ介在ヲ以テシテハ議容
易ニ纏マラザルベク其ノ效果甚ダ疑問トセ
ザルヲ得ズ然ラバ他ノ方法トシテ汪蔣ノ合
作ハ如何ト言フニ其ノ效果ハ汪蔣ノ實力如
何ニ歸著スベシ即チ汪政權ハ概ネ我軍ノ占
據地域ヲ以テ其ノ勢力範圍トスルモ其ノ地
域ハ細ク深ク進ムニ過ギズシテ其ノ間ニハ
敗殘兵尚多數殘留シ在任民衆ノ信賴ハ果シ
テ汪蔣何レニ屬スルヤ疑問ナリ又蔣政權ニ

ハ尚百萬有餘ノ兵力存スルニ汪政權ハ僅ニ
八萬餘ヲ有スルニ過ギズ其ノ實力ニハ甚ダ
懸隔アルヲ以テ汪蔣ノ合作モ亦事實困難ナ
ルベシ斯ク觀ジ來レバ重慶政府ヲ屈伏セシ
ムルハ武力ヲ以テ之ニ壓迫ヲ加へ其ノ壊滅
ヲ期スル外ニ途ナク自然帝國ハ長期戦ヲ遂
行スルノ止ムナキニ至ルベシ之ニ處センガ
爲ニハ努メテ國力ヲ培養スルト共ニ國內ニ
於ケル相剋摩擦ヲ悉ク解消セシメザルベカ
ラズ從來政府ハ屢々軍官民ノ協力一致ノ必

要ヲ力説セラレタルが眞ニ其ノ效果ヲ發揮
 センが爲ニハ軍官民ノ各々が健康體ナルヲ
 要ス然ルニ之ヲ現實ニ觀ルニ民ノ方面ニ於
 テハ右ノ理想ニ反シタル現象漸ク著シカラ
 ントスルノ情勢ニ在リ是レ國內ノ總力ヲ一
 ニシ以テ外ニ向ハントスルニ際シ大ニ憂フ
 ベキコトナリ現内閣ハ其ノ組閣當初ニ於テ
 基本要綱ヲ發表シ國內體制ノ刷新ヲ企圖セ
 ラレタルが此ノ所謂國內新體制ニ付テハ國
 民中疑惑ノ念ヲ抱ク者尠カラズ即チ新體制

ヲ以テ舊體制ノ破壊ヲ必然ノ前提ト爲シ建
 設ノ前ニ先ヅ破壊ヲ企ツルモノノ如ク解ス
 ル者アリ之が爲事變處理ノ推進カタラシメ
 ントシテ企圖セラレタル國內新體制ノ設定
 が萬一ニモ國內相剋ヲ惹起セシメタリトセ
 バ却テ事變ノ處理ヲ阻止スルノ結果ヲ招來
 スベシ尚又新體制ヲ理解セザル者ハ之ヲ以
 テ憲法ニ違背スルモノナリト謂フ若シ萬一
 ニモ憲法ノ條章ニ反スルコトアリトセバ即
 チ憲法ニ紛更ヲ來サシムルモノナルが故ニ

絶對ニ之ヲ避クルヲ要スベシ
 以上ノ諸點ニ付政府ノ御所懷ヲ問フ
 五番(近衛) 御所説誠ニ同感ナリ本案條約ノ締
 結ニ依リ事變ハ一層困難ナル段階ニ突キ進
 ムモノト思料セラル此ノ新段階ヲ切り拔
 ンガ爲ニハ國內ノ相剋摩擦ヲ克服シテ眞
 軍官民一體ト爲リ一億一心ノ實ヲ擧グルノ
 要アルヲ痛感ス即チ政府ニ於テハ此ノ新段
 階ニ應ズベキ體制ヲ整フル爲日夜苦慮シツ
 ツアリ然ルニ昨今國內新體制ニ關シ種々ノ

流言アルハ遺憾ナルガ新體制運動ハ勿論憲
 法ノ範圍内ニ於テ之ヲ行ハントスルモノニ
 シテ經濟上ノ關係ニ於テモ經濟ノ傳統ヲ破
 壞シ革新ノ爲ノ革新ヲ行ハントスルモノニ
 非ズ今後政府ノ意圖スル所ヲ充分國民ニ徹
 底セシメ以テ國內ニ於ケル種々ノ不安ヲ拂
 拭スルニ努ムベシ重慶政府ニ對スル處理工
 作ニ付テハ之が屈伏ヲ見ズシテハ全面和平
 ノ實擧ラザルニ由リ新政府承認後ト雖重慶
 政府ヲシテ帝國ノ對支政策ヲ眞ニ理解セシ

々新政府ニ合流セシムルニ努メント欲ス
 九番(松岡) 外交ニ付總理大臣ノ説明ヲ補足シ
 本官ノ觀ル所ヲ一言セン條約調印ニ依リ新
 政府ヲ承認セバ對重慶工作ハ種々ノ情勢ニ
 鑑ミ一時的ニハ一層困難トナランモ歸スル
 所今後ノ工作が從前ノ工作ト異ナルハ新政
 府ニ重慶政府ヲ合流セシムルコトノ一途ニ
 於テノミ行ハルルコトナラン即チ新政府承
 認後ニ於テハ帝國ハ飽ク迄之ヲ支持スベク
 從ツテ工作ノ建前トシテ汪ヲ首班トシタル

中華民國國民政府が國內問題トシテ重慶政
 府ニ歸順合流ヲ促スコトトナラン但シ事ノ
 實際ハ帝國之ニ協力シ又ハ新政府ノ諒解ノ
 下ニ帝國自ラ直接重慶政府ニ工作ヲ進ムル
 コトトナルベク之が爲ニハ獨國ノ力ヲ借り
 又ハ日ソ國交ノ調整ニ努メ之が利用ヲ圖ラ
 ントス即チ凡ユル手段ヲ盡シ以テ全面和平
 ノ實現ニ極力努力セントス
 二十六番(清水) 新聞紙ノ傳フル所ニ由レバ南
 京政府ニ於テハ憲法ヲ制定シ明年一月一日

之ヲ發布スベシトノコトナルガ其ノ内容ニ
於テ本案ノ條約ニ抵觸スルコトアラバ事其
ダ面到ナランモ制定ノ事前ニ於テ帝國側ニ
内示セララルモノナルカ

九番(松岡) 憲法制定ニ付テハ聞キ及ビ居ラザ
ルモ新政府ト緊密ナル聯繫ヲ保チ心配ノ十
キヤウニスベシ

尚石塚顧問官ノ質問ニ對スル答辨ヲ補足セ
ン今般承認セントスル新政府ハ今後之ガ首
班者ニ何人が當ルモ敢テ帝國ノ關知スル所

ニ非ザルナリ現ニ汪ハ全面和平實現ノ爲自
己ガ政府ノ首班タルコトニ不便ナランニハ
何時ト雖之ヲ去ルノ決意ヲ有スルモノト聞
ク尤モ重慶政府合流ニ際シテハ蔣ノ下野ス
ルコトモアラン何レニセヨ新政府ノ承認
ハ首班者タル個人ニ拘泥スルモノニハ非ザ
ルナリ

二十五番(石塚) 外務大臣ノ説明ハ諒承セリ但
シ汪蔣ニハ夫々ノ背景アリ之ヲ無視スルコ
トハ不可能ナリ更ニ進ンデ民心ヲ得タルカ

否カニ付テモ深ク思ヲ致スノ要アルベシ
議長(原) 他ニ御發言ナキ故第二讀會以下ヲ省
略シテ直ニ採決スベシ本案賛成ノ各位ノ起
立ヲ請フ

(全員起立)

議長(原) 全會一致可決セラレタリ

○ (後件委員著席)

議長(原) 次ニ

情報局官制

外務省官制中改正ノ件

文官任用令中改正ノ件

大正二年勅令第二百六十二號任用分限又

ハ官等ノ初叙陞叙ノ規定ヲ適用セサル文

官ニ關スル件中改正ノ件

情報局情報官ノ特別任用ニ關スル件

以上五件ヲ一括シテ議題ニ供ス第一讀會ヲ

開キ朗讀ヲ省略シテ直ニ審査委員長ノ報告

ヲ求ム

報告員(石井) 今回御諮詢ノ情報局官制外務省